



すずむし

Vol. 6 No 2

倉敷昆虫同好会

Sep. 1956

目 次

作 東 の 蜻 蛉 類 I	安 東 瑞 夫	1
邑久郡長船町附近の蝶類4題	秋 山 茂	5
ク ロ ツ バ メ 観 察 I	赤 枝 一 弘	6
— お と し ぶ み —		
総社市門田でラミーカミキリ採集	若 林 正 史	7
新見市草間町でラミーカミキリ	小 野 洋	7
倉敷附近でヒメヒカゲ、その他	友 野 良 一	8
ウラナミジャノメについて	安 東 瑞 夫	8
岡山金山へ行く人に	赤 枝 一 弘	8
ムラサキツバメを豪漢で採集	青 野 孝 昭	8
ウスイロオナガシジミとウラジロミドリシジミの分布	小 野 洋	9
クロスジギンヤンマ金甲山に多産	安 東 瑞 夫	9
西大寺市龍の口にネプトクワガタ	赤 枝 一 弘	9
— ユ ー ス —		
新 入 会 員		9
編 集 後 記		10

作 東 の 蜻 蛉 類 1

安 東 瑞 夫

Odonata of Eastern Mimasaka Okayama prefecture.
Japan By Mizuo ANDŌ

§ 1 は し が き

筆者は1949年より1952年に亘る4年間当地方の蜻蛉類に興味を持って採集観察を続けて来たが、何分筆者個人の採集観察記録が大部分でもあり且つ遠隔地への採集を頻繁に行えなかつた為、専ら筆者の居住地(勝田郡勝田町)周辺で採集したもので粗澁を免れ得ないものである。特に南部一帯の調査が行届いていない現在、完成を期し難いが、同好諸氏の叱正を得られれば幸いと思ひ敢えてこの小文を草した次第である。本文に入るに先だち御指導を賜つた香川農科大学教授中条道夫氏に深甚の謝意を表すると共に遠隔地への採集に際し多大の便宜を与えられた東栗倉中学校長本位田隣太氏の御好意に対し衷心より厚く御礼申し上げる次第である。

此処に述べる作東地方とは岡山県東北部に当る勝田、英田両郡を含む津山以東の地域を指すものである。当地方は北部に中国山脈を控えここを水源とした梶並、吉野両河川の流域であつて東半一帯は池沼の発達した悪い地域で後山若杉林を源流とする吉野川に沿つて細長い峡谷をなし林野附近で梶並川と合流しやがて吉井川となつて備前平野へと注いでいる。

西半は那岐連峰(1200m前後)の麓に日本原の平原を形成し火山灰土に一面覆れた地帯でこれより南下するに従い丘陵地帯となり山相は殆んど赤松林で潤葉樹林は点在する程度である。蜻蛉類はこれらの両河川及びそれらの支流、そして特に丘陵の谷間に堤防を築いた水田灌漑用の貯水池を主要発生地としている。特に姫新線以北の勝田郡一帯の池沼は非常な発達を見るに及んでいる。これらの地域は蜻蛉類幼虫の棲息に適しているものと考察される。

§ II 目 録

Order ODONATA 蜻蛉目

Suborder ANISOPTERA 不均翅類目

Family LIBELLULIDAE トンボ科

1. *Lyriothemis haohygastra* SELYS ハラビロトンボ

平地、丘陵の池沼、田圃等に普通に産する。那岐山麓一帯では9月上旬にも未だ見られる。

2. *Orthetrum albistylum* Speciosum UHLER シオカラトンボ

各地に極めて普通に産する。

3. *Orthetrum japonicum japonicum* UHLER シオヤトンボ
春季各地に極めて普通に産する。
4. *Orthetrum triangulare melania* SELYS オオシオカラトンボ
山地、平地の池沼に普通に産する。特に山地に多産する傾向がある。
5. *Libellula quadrimaculata* LENNE ヨツボシトンボ
池沼に産するが少ない種類で、1950 VI 23、勝田郡勝田町 1♂。1951 VI 13、勝田郡勝田町 1♂。1952 VI 7 勝田郡勝田町 1♂の記録がある。
6. *Nannopya pygmaea* RAMBUR ハツチヨウトンボ
英田郡日名倉山 (1014m) 中腹のカヤマリ場附近に於て1951 VI 26 山根 知之氏 (岡山市農林省、輸出検査所技師) により採集された。
東粟倉中学校所蔵標本中同氏採品の1♂ 1♀を検した。
7. *Crocothemis servilia* DRURY ショウジヨウトンボ
各地の池沼に極めて普通に産する。
8. *Sympetrum pedemontanum elatum* SELYS ミヤマアカネ
池畔、林間草原等に見られるが余り多くない。山間部に多産する。
9. *Sympetrum frequens* SELYS アキアカネ
7月上旬頃平地に羽化するが、羽化後の個体は高地帯への移動が行われるものであるらしく平地に於ては羽化直後、交尾産卵期を除いては極く稀に発見され相当長期間の不在期間が存在する。この期間中中国山脈一帯の山頂附近には本種が甚だ多い。平地に於いては秋期9月頃より本種が漸次見受けられるようになるもので、これは個体の成熟と共に交尾産卵の為平地への下降を意味するものであろう。未だ移動に関する確な資料はないが、以上のような観察から推察して相当長距離の移動が行われるものであるらしい。
10. *Sympetrum darwinianum* SELYS ナツアカネ
各地に極めて普通、前種に比し個体数は遙に多い。
11. *Sympetrum risi* BARTENEFF リスアカネ
翅端褐色を呈する種で次の二種と混同され易いが胸側斑紋、生殖器の相違により区別容易である。池沼林間に見られる普通種で Gen *Sympetrum* 中最も早く10月下旬頃没する
12. *Sympetrum infusatum* SELYS ノシメトンボ
前種より稍々大型、池沼に普通に産する。
13. *Sympetrum baoccha matutinum* RIS コノシメトンボ
前2種に混じて発見されるが採集される個体数は極く少ない。
14. *Sympetrum erotiolum erotiolum* SELYS マユタテアカネ

平地、山地に普通に産する。

15. *Sympetrum kumokeli* SELYS マイコアカネ

前種に比し遙かに局所的で、棲息を確認した産地は勝田郡植月村、同郡河辺村、同郡勝間田田町の3ヶ所であるが、産地に於ては多産する。

16. *Sympetrum parvulum* BARTENEFF ヒメアカネ

小型の *Sympetrum* で本州、四国、九州から知られているが、従来の記録の中にはマダガスカルアカネの倭少型を設けて同定している向もありこの点注意を要する。作東地方からは 1950 VIII 23 勝田郡勝田町に於ける 1♂ の記録があるのみで、その後採集するに至っていない。

17. *Sympetrum graoile* OGUMA ナニワトンボ

勝田郡勝田町真加部。同郡勝間田町黒土。同郡植月村良。同郡豊並村村。同郡勝加茂村原。の5ヶ所の産地が挙げられ産地に於ては棲息場所が限定され、池畔附近にのみ見受けられる。特に♀は羽化後池畔の喬木の樹上に移動する習性があり、交尾産卵期を除いては専ら樹上に見られる。又♂は羽化直後の個体は黄色の体に黒条を有するが、日を経過するに従い黒化灰白粉を帯び黒条は見られなくなる。飛翔力は弱く出現期間を通じて池畔附近に見られ遠距離の移動は行われない。産地に於ては多産する。

18. *Sympetrum Croceolum* SELYS キトンボ

各地に産するが少ない。時に12月に入つてからも生存していることがある。

19. *Baethemis zonata* BURMEISTER コシアキトンボ

池沼、路上を徘徊する普通種

20. *Pantala flavescens* FABRICIUS ウスバキトンボ

路上等の一定の空間を群飛する習性がある。方言でソバキトンボと云われるが、この群飛の見られる頃が蕎麦の播種期に当るからであろうか?

21. *Rhyothemis fuliginosa* SELYS テヨウトンボ

各地に普通。

22. *Epitheca marginata* SELYS トラフトンボ

5、6月頃池沼或は路上に見られるが既して少ない種類である。

23. *Somatochlora uohidai* FOERSTER タカネトンボ

中国山脈一帯に少ないながら見られるが、豊並村豊沢 (1952. VII 2目撃) 勝田町久賀 (1946 VIII 1♂) の記録もあり、かなり広く分布するものであるらしい。金緑色に輝く中型の美麗種で採集される時期は総て7、8月であるが、他地の例から見て少くとも10月迄は棲息しているものもようである。

24. *Maoromia amphigena* SELYS コヤマトンボ
陸上、林間等に普通に産する。
25. *Epophthalmia elegans* BRAUER オオヤマトンボ
池沼に多産する。
Family CORDULEGASTERIDAE オニヤンマ科
26. *Anotogaster sieboldii* SELYS オニヤンマ
山地、平地に普通に見られる。
Family AESCHNIDAE ヤンマ科
27. *Planaeschna milnei* SELYS ミルンヤンマ
体黒色に鮮黄色の斑紋を有する美麗種で中国山脈一帯の溪流から採集されるが少ない種類で
1950 VIII 3 那岐山 ♀。1950 VIII 18 後山 IEX。1951 VIII
25 那岐山 2♂♂。の記録がある。好水性を有し溪流附近に静止時は暗所に飛翔している
飛翔習性はカトリヤンマを思わせる。
28. *Boyeria maolachlani* SELYS コシボソヤンマ
1950 VIII 23 ♂。勝田町の記録のみで少ない種類である。
29. *Gynacantha japonica* BARTENEFF カトリヤンマ
極く普通種で夕方活潑に飛 する。
30. *Anax parthenope julius* BRAUER ギンヤンマ
各地の池沼に普通。
Family PETALURIDAE ムカシヤンマ科
31. *Tanypteryx pryeri* SELYS ムカシヤンマ
山地の溪流に産するが稀なものゝ如く次の記録があるのみである。
1952 V 15 勝田町鶴津 1♂
Family GOMPHIDAE サナユトンボ科
32. *Gomphus melaenops* SELYS ヤマサナエ
山地、平地に普通に産する。
33. *Gomphus pryeri* SELYS キイロサナエ
前種に酷似するが♂の尾部付属器、胸部側縁線の形状、♀生殖器により区別は容易である。
前種に比し稍遅れて発生し個体数に於ても少ない。
34. *Gomphus postocularis* SELYS サナエモドキ
中型の頑丈なサナエトンボで河川附近に見られるが飛翔感速で採集は比較的困難である。
少ない種類である。
35. *Gomphus melampus bifasciatus* ASAHINA フタスジサナエ

Gomphus 中最も早く4月中旬より出現し、発生は山間部の池、小川等で平地には少ない傾向がある。

- 36、 *Gomphus oitimus tabei* ASAHINA タベサナエ
前種と共に *melamphus* 群の1種であるが、低地の流水を主要発生地とし専ら平地にのみ見受けられる。尙本種に近似の *G. ogumai* ASAHINA オグマサナエは未発見である。
- 37、 *Davidius nanus* SELYS ダビドサナエ
山地の溪流附近に普通である。
- 38、 *Davidius fujiana* FRASER クロサナエ
極めて少ない種で 1951 V 5 勝田町久賀 1♂ が採集されたのみである。
- 39、 *Lanthus suzuki* OGUMA オジロサナエ
小型の繊細なサナエで本州、四国の山地の溪流に稀に発見されるもので現在迄下記の2産地があるのみである。
1951 VIII 中旬 英田郡東栗倉村青野 1♂ 福田蔵探
1952 VII 6 勝田郡勝田町久賀 1♂ 2♀♀ 筆者採
- 40、 *Nihonogomphus viridis* OGUMA アオサナエ
河川附近に見られるが餘り多くない。
- 41、 *Onychogomphus viridicostus* OGUMA オナガサナエ
各地に産するが少ない種類である。特に山地には相当多数の個体を見ることが出来る。
- 42、 *Sieboldius albardae* SELYS コオニヤンマ
平地、山地に普通に産し、よく静止するので採集は容易である。遅い記録として勝田郡太野村、1952 IX 23 1♀ 採集の記録がある。
- 43、 *Iotnogomphus olavatus* FABRICIUS ウチウヤンマ
池沼に普通であるが、飛翔は敏速である。

邑久郡長船町附近の蝶類4題

当地方の珍しい蝶について報告する。

秋 山 茂

- (1) *Careana ibara* Butler ウラキン
シジミ岡山県下に於いての本種は新昆虫 (Vo 17, No 10) によると倉敷附近の金山に産する
様でかなりの高い山から採集されているが
私は100mたらずの山から1♀を採集した
ので報告する。

♂♂ : 1956年6月25日 赤松郡吉井山
(海拔120m位)

採集及び所収は筆者

ミズイロオナガ、ウラナミアカが多産する傾斜のゆるやかなクスギ林(高さ1m位)から飛び出し近くの竹に停止したものを採集。不完全品で交尾してだいぶ日数がたっているらしく腹がはらんでいた。6月下旬であつたので中旬に出かければかなりの個体数は得られるものと確信している。当地の *Zephyrus* は本種を入るとアカシジミ、ウラナミアカ、ミズイロオナガ、オオメドリ(いずれも1956年度採集)の五種でまだ1955年度に始めたばかりで未開地が多く種物(油桐樹)も低山地にかなり豊富に分布しているので今後期待が持てる。

(2) *Zizina atis* Fabricius シル
ヴィアシジミ

本種は山陽地方に於いて比較的多産するらしいが倉敷、西大寺の記録をみると少くないようで当地の捕息状態を報告したい。当地の吉井川下流(福岡河原)に於いてはかなり多産する。本種の食草であるミヤコグサの群集に行けば何らでも得ることができたが種物の分布のため局所的である。1955年の採集報告をすると20
♂♂♀♀ : 1955年8月13日 長船明福岡河原で余りが新鮮なもので交尾型は♂+♀→であつた。

(3) *Neptis pryori* Butler ホシ
スジ

当地で本種を発見して2年になるが分布について異様な事があるので報告する。本種は1955年6月2日の初見日から1956年の初見日

6月9日まで分布は邑久郡長船明、邑久町、和気郡東鶴山の地域でかなり多数見受けられるがこれらの地域は全部吉井川両域でコムシジの多産する北城岸の赤松郡瀬戸町には一匹も見受けられない。(尚コムシジは南城岸にも多産する)当地の吉井川は東→西に走っている。生物分布線が走っているのかもしれないが今後北城岸を採集して明らかにしたいと思つている。

(4) *Thymelicus sylvaticus*

Brewer ヘリグロチヤバナセセリ

2♂♀ : 1955年6月25日 赤松郡吉井山倉敷地方に於いては多産しないらしいが東部に於いては西大寺当地ともかなり多産する。

採集したのは二匹のみであつたがキマダラセセリと混合して飛んでおり同数位であつた。

以上四種の蝶について記してみたが岡山県下目録作製上に何等の参考になれば幸いです。当地に於いては現在まで丁度50種(7科)を数えるがまだ未完成で完全なものにしてから発表させていただきたと思つている。

(岡山県邑久郡長船明福岡)

クロツバメ観察 1

赤 枝 一 弘

クロツバメの飼育を大分やつて来たので本種について今後断片的に記して行きたいと思つている。今回は第一回として生活史を一通り書いてみたい。卵はツメインゲの葉の根本の当り(裏面が多くはげやすい)に生れる。孵化した一令幼虫は紅色であり(ベニシジミ紅色型に類似)孵化するとすぐにツメインゲに喰い込む卵殻を食するのは見られない。その後命をかさねるに従

つて緑色が増し終令幼虫に於てはまったく緑色(背線と縁のみ紅色)となる。蛹にはまったく緑色のものから一見真黒に見える程黒の濃いものまである。これについては又いづれくわしく書くつもりである。成虫は長野県に於ては5月上旬、7月中旬、9月中旬の年3回発生だそうである。日本の蝶(江崎、白水)によると多化性。正確な発生回数不明。日本蝶類解説(林慶)によると瀬戸内海地方の発生は年により季節により多寡の差が著しいとなつている。当地に於ては明らかに多化性である。この問題は興味を持つても何分にも資料不足でどうにもならぬ。越冬体は幼虫春五月から発生するが個体数が非前に少いと思われる。私は当地方で春期成虫採取してない。

参考文献(主要な物のみ)

- 日本の蝶 江崎、白水
- 日本蝶類解説 林慶
- 松本近郊に於けるクロツバメシジミの生活史 藤沢勝利 *Athocaris*
V O 1, 2 N O 1 1955

おとしぶみ

総社市、門田でラミーカミキリ採集
1954年の6月5日総社市門田の浅尾山で【むくげ】にとまつているラミーカミキリを採集しました。採集したそのあくる日からは6月中2、3びきは見られるようになりました。しかし居る所がきまつており、私が最初に採集した所よりほかの場所では【むくげ】がある所

でも見られませんでした。



むくげにとまつているラミーカミキリ

(若林正史)

新見市草間町でラミーカミキリ

1956年6月22日新見市草間町で採集を試みた際、井倉駅から草間へ向つて上つて行く途中で、ヤブオオに *Paraglenea fortunei* SAUNDERS ラミーカミキリが多数いるのを発見、青野氏と筆者で若干採集した。これは広瀬氏が本種の侵入北限として現在迄の記録から示された北緯34°50'に近く、即、小泉先生の御津郡長田村の記録とほとんど同緯度での記録である。新しい産地として報告しておく。

(小野洋)

倉敷附近でヒメヒカゲ その他

56 VII-6 都窪郡山手村方面へ採集に出かけ際、同村平山でヒメヒカゲ1♀を採集した。本種は本誌前号(Vo 1, 6 NO 1)の青野孝昭氏の報告の様に、北部山地性であり県南の低地で採れた事は面白いと思う。なお同日同所でウラナミシヤノメ1♀とシルヴィアシジミ1♀も採集。重せて報告する。

ウラナミジヤノメについて

本種の県北に於ける記録は既して少ないようで現在迄 新見市矢の峰 (1955 小野) 新見市草間 (1956 青野) があるのみであるが筆者は勝田郡勝田町に於て1951 VI 23 I EX を採集している。尙同属のヒメウラナミジヤノメの発生期とは若干のずれがあるようで採集当時はヒメウラナミジヤノメは殆んど浮遊した個体でこの中に混つて本種の新鮮な個体が得られた。

(安 東 瑞 夫)

岡山金山へ行く人に

本年7月20日に岡大教育学部の大森君と採取に行つた所頂上の花は2分咲きで非常な不揃だつた。ウラナミジヤノメを僕が大森君がスジボソヤマキを採つたのがせめてものなくさめだつた。セロウモン類もあまり居らず甲虫は全々駄目だつた。採取にはもう3~4日遅らした方がよいようだ。

(赤 枝 一 弘)

ムラサキツバメを豪漢で採集

岡山県ではムラサキツバメは非常に稀なものと思われる。記録は古くからあつたらしく、小坂和彦氏の岡山県産蝶類目録 (1947) にも「中部以北、珍奇」と記されているが詳細が分らない。1951年11月4日には水野弘造氏が豪漢で本種1頭を目撃され、それより10年ばかり前、吉備那足守町の間野幹男氏が同じ豪漢で本種2頭を得られていることも、あわせて

記されている。(すずむしVo 1, 1, No 1 2—1951, Vo 1, 2, No 7—1952)

筆者は本年8月5日、友野良一氏と総社市豪漢を訪れ、ムラサキツバメ1♀を採集し、更に、8月16日、総社市東中学校採集会の折にも同じく豪漢で、風早、野口、筆者によつて夫々1♀ずつ計3♀が採集されたのでここに報告して置きます。

VIII 5 1956 1♀ 筆者採

VIII 16 1956 1♀ 風早保男氏採

VIII 16 1956 1♀ 野口了氏採

VIII 16 1956 1♀ 筆者採

なお、豪漢ではシリブカガシ、マテバンイは全然発見出来ず、余体的にアラカシが多く、僅かにウラジロガシ、アカガシが認められた。

そして、いずれの採集場所にもアラカシのみが生育していた点から、豪漢ではムラサキツバメはアラカシを食樹としているのではないかと想像されます。

(青 野 孝 昭)

ウスイロオナガシジミとウラジロ

ミドリシジミの分布

かつては全国的に稀種とされ、蝶類愛好者垂涎の的であつたこれらの種も、近来各地の平地帯でも続々記録されるようになり、今やその意味での価値は暴落した。岡山県下においても、以前はその記録は真に僅で、ウスイロオナガシジミについては最北部に極めて稀、ウラジロミドリシジミについては中部以北に極めて稀とされていたところが、既に周知の如く南部平地帯の倉敷附近から前者は1949年に、後者は1

1950年にそれぞれ記録され、しかも比較的普通に発生していることが確認されて注目をあびた。その後、調査も充分に行ななかつたせいもあつて、南部では他の地域での記録がなく、こゝが唯一の発生地であり、又分布の南限かと考えられていた。

しかしながら本年に至つて更に南側で、又中部地域で、これらの種が記録され、一挙にその分布は拡大した。即ち1956年6月10日県下南端、児島半島の金甲山において採集会を催した際、ウスイロ若干個体、ウラジロは若林正史氏により1♀が採集された。6月22日には新見市草間町で同様にウスイロ若干個体、ウラジロは青野氏と筆者それぞれ1♂を採集した。これらはいずれも新しい発生地の記録である。

中部以南での発生地の記録は、このように未だ僅少ではあるけれども、互にかなりとび離れた地域で比較的普通に発生していることが認められたわけで、しかも現在迄の調査では、食樹の繁茂している処で行われた際には大抵採集されていることから、或は食樹の分布に従つて県下一帯に分布するのではないかと云つたことも予想されるところであり、今後の厳密なる調査が大いに期待される。

(小 野 洋)

クロスジギンヤシメ 金甲山に多産
本種 *Ana x nigrofasciatus* OGUMA は額上平字紋、胸部側面の2黒条。により近似のギンヤシメ *A. parthenope julius* BRAUER と容易に区別されるが、現在迄県下

からの確実な採集記録を見なかつた。去る6月10日金甲山に於て1♂を採集し棲息を確認し得た。

尙当日同行の友野、若林両氏も各1頭を採集し他にも数頭目撃された。

(安 東 瑞 夫)

西大寺市龍の日にネプトクワガタ

Aegus laevicollis subnitidus
Waterhouse ネプトクワガタを1956、7、28、2頭採取、1954、9、12、に一頭採つているので計3頭当地で採取した事になる。

(赤 枝 一 弘)

メ ヌ ー ス

日本昆虫学会中国支部の第4回例会が去る7月15日、岡大農 学部で開られました。当会の小野洋氏等の発表がありましたか演題は次の様なものでした。

1) 2、3コガネムシの日廻活動について、

10 (18)

小野洋

- 2) ホソコバネ天牛の生態及び数種の天牛類の生態に就て、間野幹男
- 3) 大豆畑におけるカメムシ類棲息部位の日過変化、秋野浩二
- 4) ベーシジミに関する調査報告 (其の二) 三好和雄
- 5) ミヤジマトンボの正体、沢野十朗
- 6) 塩素系透視殺虫剤の2、3害虫に対する効果について 白神忠雄

編 集 後 記

秋を思わず此頃の冷え込み、ウスバキトンボが路上で風にたわむれる頃となりました。

羽化後2号目の本号は害虫部第二研究室に安江先生を加えて五人が集まり編集しました。本誌も将来は活版にして等と夢の様な話に花を咲かせましたが結局は財政上.....と云う事になりました。皆さんも会員の御諒に御協力下さい。又滞納.....の方は是非、さて本号のトツブは安東氏の力作、岡山県のトンボに関して今迄まとまつたものがないだけに貴重なものです。後半は次号に載ります御期待下さい。おとしぶみは前号の青野氏の記りに刺激されてか?ウラナミジヤノメのブーム、加えて倉敷地方産蝶類70種目のヒメヒカゲ、と、まさに【日蔭の季節】となりました。いよいよ秋、食欲の秋、運動の秋、音楽の秋、行楽の秋、etc、秋も仲々忙がしい様ですが何とぞ虫の方はお忘れなく。(T)

すずむし 第6巻 第2号

昭和31年9月9日印刷

昭和31年9月10日発行

編集兼
発行者

倉敷市住吉町 岡山大学農業生物研究所
害虫部 第二研究室内

倉敷昆虫同好会